

平成 28 年度 自己評価結果を踏まえた学校関係者評価報告書

柴田町立船岡中学校

1 評価期間 平成 28 年 5 月～平成 29 年 1 月

2 学校関係者評価委員

(委員長), (副委員長), (委員 4 名)

3 評価規準

- | | |
|---------------|------------------------------|
| ○妥当である。 | (適切な取組で、次年度へ向けての取組も妥当である) |
| ○妥当でない。 | (取組が不十分で、次年度へ向けての改善策も妥当でない。) |
| ○判断することができない。 | |

※自己評価の数値の算出方法

教職員の自己評価で、A：大変良い・・・10点、B：良い・・・5点、C：課題がある・・・-5点、D：かなり課題がある・・・-10点とし、各項目の合計点数を教職員数で割った値。

4 評価項目

1. 地域に支えられ「地域と創る学校」づくりの推進

	自己評価	関係者評価
(1) 学校運営に対する地域住民・保護者等の参画と意見・要望の反映を図り、信頼される学校づくりに努めている。	6. 6	妥当である
(2) 学校の教育内容や実践を、保護者や地域に積極的に公開し、開かれた学校づくりに努めている。	6. 6	妥当である
(3) 保護者の支援や地域の教育力を生かし、学校の教育活動の一層の充実を図っている。	5. 5	妥当である
自己評価結果から次年度へ向けて	学校関係者による主な意見	
(1)学校公開やPTAの時の保護者アンケートや生活カードへの保護者からの記述、生徒指導(いじめ)問題対策会議、学校関係者評価委員会、学校保健会、PTA運営委員会等を通して地域住民、保護者等の意見、要望の反映を図っている。 (2)学校だより、学年便り、学級便り、保健便り、図書館だより、カウンセラーだより、部活動便り等々、学校の様子を発信している。さらに、年2回の学校公開週間と親子運動会、文化祭、弁論大会、激励会などの行事も多くを公開している。 ・ホームページは公開しているが、日々更新をする物理的余裕がない。 (3)キャリアセミナー、職場体験、音楽の箏、家庭科の保育関係の授業、防災の社会福祉協議会、消防署、船中ボラセン、仙台大学ボランティア、特支学級のラベンダー関係、教育委員会の協力で山元町イチゴ農家での被災地ボランティア、さらに、町の放課後先生、夏期休業中の仙台大塾等、新しい取組も始まりこれまで以上に多くの地域の力を生かしている。 来年度も上記の活動を継続、さらに発展させていきたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の住民として回覧で見ている。中学生の活躍が分かってとても良い。 ・多くの便りが発行されており、先生方から情報が発信されているので、保護者がそれを活かすように心がけてもらいたい。 ・柴田町の社会福祉協議会は防災教育にも力を入れているので、これからも協力して柴田町に貢献できる子供たちの育成を続けて欲しい。 ・仙台大学との連携を今後も進めていってほしい。 ・被災地でのボランティア体験も有意義と感じる。 	

2. 「学力向上」と学習指導要領の趣旨の徹底

	自己評価	関係者評価
(4) 「学力向上」を目指して、指導方法の工夫・改善を図るとともに、個性を生かした楽しく分かる授業の実践に努めている。	6. 6	妥当である
(5) 学習意欲の向上と生活習慣・学習習慣を改善し、主体的な学習を促して基礎学力の向上に努めている。	5. 5	妥当である
自己評価結果から次年度へ向けて	学校関係者による主な意見	

<p>(4)研究授業を5回実施して、先生方の授業力向上に取り組んだ。また、常に校長が全職員の授業を参観してアドバイスをしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員会議において、3分間プレゼンテーションと銘打ち先生方の授業の工夫を学び合っている。 ・船岡中学校で活用できるICT機器について、勉強会を実施して多くの授業で活用するようになった。 <p>(5)本校の課題である家庭学習の習慣化を図るために、授業と家庭学習を一体化させるための予習・復習課題などを工夫してきた。さらに、提出物は必ず目を通しコメントを添えるなど、次の学習の意欲につながるようなはたらきかけを続けた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学習の手引き」や定期考査前の学習計画表などで勉強の仕方を指導・支援してきた。 <p>課題は、多くの校務に追われ教材研究のための時間の確保が難しいことである。運営委員会で多忙解消策を講じてはいるが焼け石に水の現状である。さらに工夫改善をしていきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力学習状況調査について、メディアで話題になっているような点数を上げるための直前対策などではなく、生徒自身が目標をもって勉強に取り組むように指導してほしい。 ・先生方が事務処理や保護者対応に追われて教材の準備をする時間が十分にとれないことが問題と思われる。 ・職場でコミュニケーションが不得手な若者が多いと感じる。是非、点数ばかりではなくコミュニケーション能力の育成も頑張ってもらいたい。
--	---

3. 豊かな人間性を育む道德教育の充実

		自己評価	関係者評価
(6)	「道德の時間」の実実施時数の確保と指導方法の工夫改善を行い、道德的実践力を高めるとともに、教育活動全体を通じた道德的実践意欲の向上に努めている。	4. 8	妥当である
自己評価結果から次年度へ向けて		学校関係者による主な意見	
(6)	<ul style="list-style-type: none"> ・道德の授業の確実な確保に努めている。 ・学年で資料の検討や共有(略案の作成・配布など)をしている。 ・学級担任にこだわらない道德の授業を実施するなど工夫している。(学年ローテーションなど) ・「私たちの道德」「みやぎの先人集」を活用している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子供に道德で使用した資料を見せてもらっている。感動するもの、考えさせられるものなどとても良い資料が多く親としても勉強になる。これからも、内面を磨くために道德も大切にしたい。 	

4. 生命の尊重と社会性の育成を図る生徒指導の充実

		自己評価	関係者評価
(7)	「いのちと心を大切にすること」及び「良好な人間関係をつくること」が重要であるという共通認識のもと、いじめや不登校のない学校づくりに努めている。	6. 6	妥当である
(8)	児童生徒の発達段階にふさわしい生徒指導を推進し、家庭と連携して基本的な生活習慣の育成に努めている。	6. 1	妥当である
(9)	児童生徒に自己の特性を、理解させるとともに能力・適性や興味・関心等に基づいて将来の生き方を考えさせる志教育・キャリア教育の充実に努めている。	5. 7	妥当である
自己評価結果から次年度へ向けて		学校関係者による主な意見	
(7)	「生活カード」「観察」「チャンス指導」「学校生活アンケート(いじめアンケート)」等を活用して、生徒の変化を捉えるように心掛けている。特に生活カードは、生徒の様子の確認やコミュニケーションの手段としている。保護者の方にも活用いただけると、さらに有益なものになると思われる。	<ul style="list-style-type: none"> ・生活カードを中心に、多忙な中で一生懸命生徒の様子を見てくれていると思う。先生方自身の健康管理を大切にしてください。 	
(8)	教育相談部会を常設して、カウンセラーのアドバイスを受けながら全職員が同一歩調で指導に当たれるようにしている。		
(9)	<ul style="list-style-type: none"> ・電話連絡、家庭訪問により家庭と信頼関係を築いて生徒指導に当たるように努めている。 ・何よりも積極的な生徒指導を大切にして、学習・部活動・行事などに本気で取り組む生徒になるように全職員で指導に当たっている。 <p>(9)農業体験学習、キャリアセミナー、職場体験学習、上級学校調べ、修学旅行を中心にキャリア教育を推進している。「志シート」が形骸化しないようにしていくことが必要である。さらに、総合的な学習の時間で行っているキャリア教育を体験活動のみで終わらせず、体験から課題を見つけ学びにつなげていきたい。</p>		

5. 安全・安心な教育環境の整備・促進

		自己評価	関係者評価
(10)	児童生徒の安全に対する意識を高めるための指導や「防犯教室」を実施して児童生徒の安全確保に努めている。	6. 6	妥当である

(11)	地震災害等を想定した「避難訓練」「引き渡し訓練」「防災教室」を実施している。	8.0	妥当である
(12)	「子ども見守隊」「安全パトロール隊」など地域の支援を受けて、通学路の安全確保や地域の巡回などを行い、事故や事件の被害を未然に防止している。	5.9	妥当である
(13)	生涯体育・スポーツの視点に立ち、健康でたくましい児童生徒の育成に努めている。	6.4	妥当である
自己評価結果から次年度へ向けて		学校関係者による主な意見	
(11)	1学年「防犯教室」、2学年「情報モラル教室」、3学年「薬物乱用防止教室」を実施している。2学年は、PTA授業参観でも情報モラル教室を保護者にも案内を出して実施した。さらに、船岡中学校では昨年からの夜9時以降の携帯等の機器の利用を控えるように指導している。柴田町でも今年度から同様の運動を展開している。ご家庭の協力が待たれるところである。各家庭の意識を高く持つてもらうことを目標に、入学説明会でも生徒指導主事から話をするなど小学校とも連携を密にしているところである。 ・今年度も船岡小学校と東船岡小学校と連携して合同の引き渡し訓練を実施した。さらに、学区内の行政区長と連携して各地区の防災訓練に参加するように促した。実際に参加した生徒が少ないので、今後さらに区長との連携を深め推進していく。また、町社会福祉協議会の協力を得て「クロスロード体験」などの防災教育を各学年で実施した。今後も継続するとともに、防災副読本を活用した防災授業の実践をしていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・防災教育で、これまで以上に行政区と連携をしてほしい。どうしても中学校に入学すると行政区の行事に参加をしなくなる。防災をきっかけにしてこの流れを変えられないか、工夫をしてほしい。 ・携帯、スマホの問題は重大である。船岡中学校で行っている夜9時以降の使用制限を徹底して欲している。保護者の問題ではあるが、ここまで深刻だと学校に頑張ってもらう以外にない。 ・中学校東側の道路での交通事故が心配される。生徒を迎えに来る保護者が路上駐車をして道路をふさいでしまっているところを部活動が終わった生徒が一斉に下校することで危険が高まっている。下校時刻に合わせて道路の規制ができないものかが話題になった。 	
(12)	来年度からは防災だけでなく安全教育として、交通安全教育を充実させていく予定である。 ・生徒指導部を中心に毎日の下校指導と地区巡視、さらにPTA校外指導部の協力を得て長期休業中の巡視活動を計画的に行った。また、毎朝、校門と自転車置き場で登下校指導を実施している。登下校時の保護者の送迎の際の駐車場所を考慮して欲しいところである。 ・お願いしたいこと…学校東側の道路を登下校時間帯に限り交通制限をしていただきたい。		
(13)	保健体育の授業と部活動を中心に全職員で指導している。本校では、年2回部活動対抗駅伝大会を生徒会主催で実施している。本大会には、吹奏楽部など文化部の生徒も参加している。		

6. 特別支援教育の充実

		自己評価	関係者評価
(14)	特別支援の指導体制が整っており、特別な支援を必要とする児童生徒のニーズに応じた指導を行っている。	5.0	妥当である
自己評価結果から次年度へ向けて		学校関係者による主な意見	
(14)	町の特別支援教育支援員の増員により、個に応じた対応が以前よりできている。来年度も、今年度と同程度の支援員を望んでいる。 ・担任が、場合によっては学年主任等も家庭訪問や電話対応を迅速かつ丁寧に行っている。必要なときは夜の時間帯や休日にも家庭との連携に努めている。SCとも連携を密にして適切な対応にも努めている。 ・教育相談部会を常設して、各学年の連携を密にして個に対応した細やかな指導に努めている。必要な場合はケース会議を設置して対応している。 ・学習室を設置して、不登校生徒や集団不適応生徒への対応の充実を図っている。生徒・保護者とも多岐にわたる要望があり対応に苦慮することもある。 ・不登校児童生徒個表等の具体的な取組は遅々として進まない。 ・特別な支援が必要な生徒の対応について学ぶ機会をもっと設ける必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・小中の連携を密にして、中断のない支援をして欲しい。 ・学校が対応できることには限界があるので、他機関との連携も上手に使って欲しい。 ・いじめアンケートも学校評価保護者アンケートも無記名のために、問題が分かっても効果的な対応がとれないことが多い。無記名のアンケートではなく記名にできないか。来年度も話題にしていきたい。 	

7. 国際理解教育の促進

		自己評価	関係者評価
(15)	自国文化に対する理解を深めるとともに、他国文化に学ぶ国際理解と国際化に対応した教育の推進に努めている。	3.4	妥当である
自己評価結果から次年度へ向けて		学校関係者による主な意見	

<p>(15)各教科で、自国文化、他国文化に関する内容を意識的に取り扱うように努力している。(英語：題材の国や土地の文化を紹介して日本との違いに気付かせている。家庭：他国の生活様式(衣食住)を取り入れている。音楽：自国の文化(箏・尺八・歌舞伎など)を学ぶとともに世界の民族音楽にも目を向け西洋音楽に偏らないようにしている。体育：武道を取り入れている。理科：科学技術の発展について日本の業績を紹介している。国語：古典や古典芸能の学習をしている。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・まず、さくらプロジェクトにしっかり取り組みましょう。
--	---

8. 情報教育の推進及び学校図書館の充実

		自己評価	関係者評価
(16)	高度情報化社会に適切に対応していくことができるよう、各教科に応じた情報活用能力の育成を目指す情報教育の推進に努めている。	3. 9	妥当である
(17)	学校図書館を整備し、児童生徒の読書活動の充実に努めている。	6. 1	妥当である
自己評価結果から次年度へ向けて		学校関係者による主な意見	
(16)	視聴覚機器や情報機器の整理と管理を徹底して、先生方が活用しやすくする。(どうしても管理が不徹底で、不慣れた先生方が使いづらさを感じている現状があるが、昨年よりは改善されて多くの先生が活用している。)	<ul style="list-style-type: none"> ・ハード面での充実が必要である。柴田町のすべての学校でWiFi環境を整えることで一歩前進するように思われる。それぞれの立場で町に働きかけていきたいと思います。 ・朝読書を今後も続けていってほしい。 	
(17)	図書館司書を中心に、図書室の運営が充実している。本の貸出件数も継続している。図書委員会の学級文庫や町の移動文庫も良書との出会いにつながっている。 ・朝読書を継続して、読書の習慣作りに努めている。		

9. 学校校地の自然環境の整備と自然体験学習の推進向上

		自己評価	関係者評価
(18)	校地内に花と緑の潤いのある教育環境をつくとともに、児童生徒の自然体験学習の充実に努め、自分たちの住んでいる地域の自然環境を守り大切にしようとする心の育成に努めている。	5. 7	妥当である
自己評価結果から次年度へ向けて		学校関係者による主な意見	
(18)	整備委員会を中心校門から昇降口前までの花の管理を行っている。さらに、グラウンドの整備や掃除なども生徒が進んで行う姿が多く見られるようになった。放課後に除草作業等のボランティアを募集すると100名以上が集まる。 ・特別支援学級が「ラベンダー」の栽培と小物づくりを継続している。少しずつ、校内の花壇にラベンダーが増えてきている。	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校では緑化活動に時間を充分にとることが難しいと思われるので、できる範囲で取り組んで欲しい。柴田町は「花の町」でもあるので、子供たちに意識させて欲しい。 	

10. 教職員の資質及び指導力の充実・向上

		自己評価	関係者評価
(19)	教職員の自己研修を促し、指導力向上を図るとともに、学校課題の解決を図る校内研究・校内研修を積極的に推進している。	6. 6	妥当である
自己評価結果から次年度へ向けて		学校関係者による主な意見	
(19)	研究授業を計画通りに実施して授業力向上を図った。 ・職員会議での3分間プレゼンテーション等で職員間の学び合う機会をつくった。 ・同教科で複数の教員がいるので、教科内で情報交換を行い、教科についての指導力向上ができています。 ・日常的に先輩教諭が若い教諭と関わりをもち、指導する場面が見られる。今後も継続していきたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・先生方も十分に努力をしていると思う。「もっと頑張る」としか言えない。 	

11. その他

		自己評価	関係者評価
(20)	子供たちと一緒に話をしたり、教育相談をするなどのふれ合う機会を多くつくっている。	5. 5	妥当である
(21)	子供たちは充実した学校生活を送っている。	4. 8	妥当である

自己評価結果から次年度へ向けて	学校関係者による主な意見
<ul style="list-style-type: none"> ・「生活カード」を継続して、生徒の生活の様子を確認するとともに、家庭との連携に努めていく。 ・個々の先生は隙間時間を活用して生徒とふれあう時間を少しでも多くして、生徒理解に努めている。 ・「生活カード」やチャンス指導などしているが、十分なレポートをはかる余裕がないのが現状である。家庭でできること、地域でできることは、家庭や地域が自覚と責任を持ってやっていただくと良い循環が生まれると思われる。 ・部活動の充実が、学習の充実につながっている生徒が多い。全校生徒が、やりがいを持って生き生きと学校生活を送れるようにしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・先生方が子供のことに集中して取り組めなくなってきたのが外から見ても分かる。今の努力を続けて行って欲しい。大切なのは、家庭が自分の子供をしっかり見ること。 ・部活動の充実が、学習の充実につながっている生徒がいるのはとてもうれしいことである。これからも部活動と学習の両立を目指してほしい。

12. 教育目標について

	自己評価	関係者評価
(22) 教育目標「豊かな品性・強い心身・確かな知性をそなえた生徒の育成」が、学校の教育活動において具現化されている。	6. 1	妥当である

自己評価結果から次年度へ向けて	学校関係者による主な意見
<ul style="list-style-type: none"> ・教育目標が日々の教育活動に具現化されるように、教育計画の内容を吟味するとともに、月ごとの職員会議において、それぞれの活動の目的、内容を確認している。しかし、先生方が多忙で、教育目標を十分に意識できずに職務を遂行していることが多いように感じる。教職員の多忙解消が何よりも望まれる。土日も休まずに船岡中学校の生徒のために尽力している先生が多くいることを、もう少し認めていただくと先生方の気持ちの上での多忙感の解消になるのではないかと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標達成に向けて不断の努力をして行って欲しい。

◆その他:学校関係者による主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価が厳しすぎるのではないですか。先生方の健康管理，心のケアをお願いします。
